

監査結果報告書

2021年5月31日

社会福祉法人保健福祉の会 殿

監事 北田喜美代 ㊞

監事 佐藤 晃敏 ㊞

私たち監事は、社会福祉法第40条および関連法に基づき2020年度（2020年4月1日から2021年3月31日）の監査を以下のとおり実施しましたので報告します。

監査日時 2021年5月25日（火）9時30分～16時00分

監査場所 都和のはな3階会議室

立会人 上田法人理事長、川原法人常務理事、坪田老健西の京事務長、猪熊特養都和のはな施設長、和田グループホーム都和のはな管理者、和久田虹の家管理者、京藤青い空保育園園長、福田洛西保育園園長、谷川あらぐさ保育園園長、田村児童発達支援事業パーチェ管理者、田村法人事務局員、松山西の京事務員0

監査結果

1. 社会福祉法人保健福祉の会の2020年度の財産目録及び損益計算関係書類の点検照合を行いました。違算なく合致しており適正に処理されていることを認めます。

2. 法人および各事業所

(1) 法人の結果

新型コロナウイルス感染症への対応に追われる厳しい状況のなか、利用者、職員の安全を守るため奮闘している役職員の皆様に敬意を表します。ひきつづくコロナ禍のなかでの1年となりますが、社会福祉としての役割を果たしながら更に事業を維持し発展させられることを心より期待いたします。

2020年度の法人合算では、当期活動増減差額7,854万円の黒字となっています。前年度よりも減益となるものの予算を上回る黒字を確保しています。事業毎では、介護事業で▲1,953万円の赤字、保育事業5,848万円の黒字、児童支援事業2,496万円の黒字となっています。

事業活動のサービス活動収益は15億7,067万円となり、前年より1,967万円(101.3%)の増収予算に対しては4,388万円(102.9%)の超過となっています。事業毎には、介護事業▲350万円(前年比99.5%)の減収、保育事業3,064万円(前年比104.1%)の増収、児童支援事業▲397万円(前年比97.1%)の減収となっています。この収益の中に、新型コロナウイルス感染症関連補助金1,875万円が含まれていることは留意しておく必要があります。

資金収支差額合計では、▲1,732万円の赤字となっています。今期の固定資産取得は、総額で8,897万円(予算比427.7%)となっています。故障による緊急対応や新型コロナウイルス感染症関連補助金の積極的活用によるものです。又、将来への準備として積立を5,100万円行っています。取得手続き、資金も事業活動資金収支差額や補助金(2,788万円)で対応しており適切です。

財政面では、総資産は、26億7,871万円の前年度より7,981万円の増加となっています。固定資産は、取得資産、積立金等の増加、減価償却の差引で6,278万円の増加となり、負債は、5億3,702万円前期より▲1,552万円の減少となり財政面では安定しています。なお、利息軽減のため、西の京に関する福祉医療機構の借入を京都銀行に借り換えをしています。

法人運営では、理事会の出席率は96.9%(前年度100%)、評議員会は92.9%(前年度100%)となっています。毎月定期に介護事業部会・保育事業部会・児童支援部会が開催され、効率的な運営が行われています。又、児童支援事業と保育の労働条件を統一し、課題であった人事異動を可能としました。2022年4月には管理者の異動も予定しています。

今期実施された行政監査では、4件の文書指摘があり、改善の実施状況も確認できました。返還をとまなう指摘もありましたので引き続き適切な管理運営に努めてください。

(2) 各事業所・施設の結果

2020年度は、介護事業・保育事業・児童支援事業の安定的な運営、利用者の立場に立つ質の高いサービスの提供や幹部職員の配置と育成・職員の育成と労働条件の整備をかかみどりくんできました。以下は、各事業分野での取り組みの結果です。各分野とも共通して新型コロナウイルス感染症の影響を受けています。

介護事業

特養都和のはなでは、職員の退職が多く派遣対応などで人件費が増加しています。新型コロナウイルス感染症への対応で対外的な行事は中止となっています。居宅介護支援事業所へFAXをしてショート利用率のアップを図っています。西の京は、新型コロナウイルス感染症対応によりサービス収益が落ち込み感染対策が増加しています。ベテラン職員の退職と若手職員の確保で、職員構成は大きく変化しています。又、コロナ対応によるWEBによる研修会の実施により多くの職員が民医連の研修に参加できたことは幸いでした。グループホーム都和のはなは、見取り後の入所に期日を要した事、入院が4人で延べ156日間になった事によりベッド利用率は93.5%となりました。入所者の介護度アップや平均年齢の上昇による安全管理とベットコントロールが課題です。ケアステーション虹の家は、管理者が育児休業から復帰し、訪問介護の件数についても平均44件と回復しています。

決算の特徴は、サービス活動収益で、特養都和のはなは、前年比100.2%の増収、老健西の京は99.6%の減収、GH都和のはなは99.6%の減収、虹の家は98.9%の減収、合計で99.5%、350万円の減収となっています。当期活動増減差額は、特養都和のはなは▲830万円の赤字、老健西の京は▲858万円の赤字、GH都和のはなは▲244万円の黒字、虹の家は▲20万円の赤字とすべての事業所で赤字となり、合計で▲1,953万円の赤字となっています。

保育事業

各園とも、新型コロナウイルス感染症に関する、感染対策、保護者や職員対応、行事の見直しなどを随時行っています。各園の入園状況は、1ヶ月平均で、白い鳩保育園123名、洛西保育園136名、あらぐさ保育園56名、青い空保育園77名となっています。白い鳩保育園では、定数割れが心配されましたが120名定員で123名でのスタートとなりました。0歳児が少なく1・2歳児を含め生活グループを柔軟に対応しています。洛西保育園は、4ヶ園の中で短時間が最も少なく保育時間の長い子どもが多いのが特徴です。医療的ケア児を受け入れ看護師を採用し対応しています。あらぐさ保育園では、育児休業あけの職員の復帰もあり、職員体制は安定していました。幼児クラスが一人担任であることもありクラスを超えた連携を図っています。青い空保育園は、支援の必要な子どもや家庭が多く、職員の育成と支援が課題となっています。

決算の特徴は、サービス活動収益で、白い鳩保育園、前年比100.4%微増、洛西保育園95.4%の減収、あらぐさ保育園112.3%の増収、青い空保育園117.6%の増収となっています。当期活動増減差額は、白い鳩保育園197万円の黒字、洛西保育園1,653万円の黒字、あらぐさ保育園1,403万円の黒字、青い空保育園2,594万円の黒字、合計で5,848万円の黒字となっています。

児童支援事業

新型コロナウイルス感染症が蔓延する中で、登録はするが登園しない、先延ばしなるなどの状況も発生しています。リモートでの居宅支援が可能になり、電話やWEBでの対応も行っています。児童相談支援でも同様の対応をおこなっています。又、相談支援員の1ヶ月の担当上限は40名となっているが、年度替わりには集中することで減算となっています。利用者状況は、パーチェ年間3,073名(1日当たり10.6名 前年度比93.6%)、第二パーチェ年間2,618名(1日当たり9.0名 前年度比96.1%)、パーチェ梅小路年間2,574名(1日当たり8.8名 前年度比97.0%)相談支援パーチェ計画相談299件(月平均24.9件、前年度比99.0%)モニタリング275件(月平均22.9件、前年度比114.5%)となっています。

サービス活動収益では、パーチェは前年比93.4%、第二パーチェは前年比97.6%、パーチェ梅小路100.5%、相談支援パーチェ100.2%、合計で前年比97.1%(397万円の減収)となっています。

当期活動増減差額は、パーチェ831万円(返還▲393万円)、第二パーチェ749万円の黒字(返還▲49万円)、パーチェ梅小路601万円の黒字、相談支援事業パーチェ314万円、合計で2,496万円の黒字となっています。

以上